

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
論理学	1	30	2年後期	石飛 道子
科目のねらい 対話の中に論理を入れて、優しいコミュニケーションのやり方を学ぶ 思考を順序立てる方法を学ぶ				
教科書 : プリントを配布する 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教材をプリント配布で進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	論理学の目的	2	 プリントを中心に問題に 自らついて考え、答えを 出しながら、論理的な 思考を学ぶ	講義 中心
2	因果関係・縁起	2		
3	コミュニケーション法	2		
4	弁証法・対話法	2		
5	語り方のあれこれ	2		
6	因果関係	2		
7	ブッタの公式	2		
8	自然の因果・心の因果	2		
9	順序立てて説明する	2		
10	相対的な言葉（反対）	2		
11	相対的な言葉（矛盾）	2		
12	わかりやすい表現	2		
13	考えて書く	2		
14	考察しよう まとめてみよう	2		
15	まとめ	2		
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
英語Ⅱ	1	30	2年後期	佐藤 有
科目のねらい 医療に関するメディアからの広汎な英文を学びながら、①医療に関わる基本的な英語用語を身につける②英語の読解力・活用力を高める③英語のコミュニケーション能力を高める 教科書：特定の教科書は使用しません 使用資料は授業に先立って配布します 参考文献：Akihiko Higuchi, John Tremarco <i>First Aid! English for Nursing</i> KINSEIDO 201（英語Ⅰで使用した教科書） 評価方法：筆記試験 100% 評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする 授業の進め方： ①毎回、授業の最初の10分は英会話に当てます ②原則としてシラバスに沿って行いますが、皆さんから特に希望するトピックがある場合や、興味ある関連ニュースが放送された場合は、一部変更することがあります				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	パラグラフとトピックセンテンス	パラグラフとトピックセンテンスの関係構造を把握できる	2	・パラグラフとは何か トピックセンテンスとは何か ・パラグラフの中からトピックセンテンスを見つけ出す	全体学習／グループ学習
2	要約文作成	要約文作成の要領を知り、要約できる	2	・「話題と主張」の押さえ方 ・「展開部」の要約のし方（意見＞事実、抽象＞具体の原則） ・対比・比喩表現に関する要約のし方 ・字数	全体学習／グループ学習
3	運動とアルツハイマー予防効果	アルツハイマー病についてのニュース内容を把握する	2	（1）ヒアリング（2）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（3）講読（4）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題（5）英作文練習	全体学習／グループ学習
4	同上	同上	2	同上	同上
5	脂肪分の多い伝統食からヘルシー志向へ	マレーシアの民族料理に対して最近起こっている変化についてのニュース内容を把握する	2	（1）ヒアリング（2）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（3）講読（4）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題（5）英作文練習	全体学習／グループ学習
6	同上	同上	2	同上	同上

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
7	音法（１）	日本人が聴きにくい発音を、ネイティブ・スピーカーはどのように発音しているかを再把握する	2	音の連結、同化・脱音などの音の変化の練習	全体学習 ／グループ学習
8	遺伝子工学の目的	遺伝子工学についてのエッセイの内容を把握する	2	（１）ヒアリング（２）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（３）講読（４）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題（５）英作文練習	全体学習 ／グループ学習
9	音法（２）	日本人が聴きにくい発音を、ネイティブ・スピーカーはどのように発音しているかを把握する	2	音の連結、同化・脱音などの音の変化の練習	全体学習 ／グループ学習
10	世界的な禁煙傾向	世界的な禁煙傾向についてのニュース内容を把握する	2	（１）ヒアリング（２）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（３）講読（４）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題（５）英作文練習	全体学習 ／グループ学習
11	同上	同上	2	同上	同上
12	遺伝子	遺伝子についてのエッセイの内容を把握する	2	（１）ヒアリング（２）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（３）講読（４）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題	全体学習 ／グループ学習
13	緑茶の効用	緑茶の効用についてのエッセイの内容を把握する	2	（１）ヒアリング（２）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（３）講読（４）単元に関係した文法問題	全体学習 ／グループ学習
14	同上	同上	2	同上	同上
15	ライフスタイルと健康	ライフスタイルと健康の密接なつながりについてのエッセイの内容を把握する	2	（１）ヒアリング（２）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（３）講読（４）単元に関係した文法問題	全体学習 ／グループ学習
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
関係法規	1	30	2年後期	水野 晃
科目のねらい 保健医療福祉に関する法規を理解する 看護業務に関連の深い関係法規を学び、看護師の業務や責任について学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院 参考文献 : その都度紹介します				
評価方法 : 筆記試験100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書や配布資料を中心に進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	講義の導入	2	授業の進め方、看護師倫理と法律 看護師のガバナンス	講義
2	看護師と法律	2	看護師と法律・裁判、 医療・福祉・社会保障と法律	
3	日本の社会保障制度	2	日本の社会保障制度、保健、年金 セイフティネット	
4	看護師として知っておくべき法律 生活保障関連法規	2	生活保障に関連する法規	
5	看護師として知っておくべき法律 保健衛生関連	2	保健衛生に関連する法律	
6	看護師として知っておくべき法律 保健予防関連	2	保健予防に関連する法律	
7 8	医療従事者関連法律	4	医療従事者に関連する法律	
9 10	看護師に関連する法規	4	保健師助産師看護師法	
11	看護師として知っておくべき法律 労働関係法規	2	労働関係に関する法律	
12	看護師として知っておくべき法律 諸法	2	諸法	

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
13	医療過誤	2	「医療過誤と責任」	講義
14	医療過誤	2	医療過誤・具体的事例の紹介	
15	医療過誤	2	演習 医療過誤の具体例を参考に 「責任」を考える	講義 演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
小児看護学方法論Ⅰ	1	30	2年後期	松浦信夫
科目のねらい 小児の健康障害の特徴と小児期に多い健康障害の病態・診断・経過・治療を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 参考文献 : 都度提示				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書を中心に授業をすすめていきます。				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1 2	染色・先天異常、新生児の疾患	4	1. 染色体異常・先天異常 1) 常染色体異常 2) 性染色体異常 2. 新生児の疾患 1) 分娩損傷・適応障害 2) 低出生体重時の疾患 3) 成熟異常	講義
3 4	代謝、内分泌疾患	4	1. 代謝性疾患 新生児マススクリーニング 1) ムコ多糖症 2) 骨形成不全症 3) 糖尿病1型 2. 内分泌疾患 1) 成長ホルモン分泌不全性低身長症	
5 6	免疫・アレルギー疾患、感染症	4	1. 免疫疾患・アレルギー性疾患 1) 食物アレルギー 2) 気管支喘息 3) アトピー性皮膚炎 2. 感染症 1) ウイルス感染症 麻疹・風疹・伝染性紅斑・水痘 手足口病・ヘルパンギーナ インフルエンザ・急性灰白髄炎 2) 細菌感染症 百日咳・ジフテリア・溶血性連鎖球菌感染症	

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
7 8 9	呼吸器、循環器疾患	6	1. 呼吸器疾患 1) クループ症候群 2) 気管支炎・肺炎 2. 循環器疾患 1) 心室中隔欠損症 心房中隔欠損症 動脈管開存症 2) ファロー四徴症 川崎病 乳幼児突然死症候群	講義
10 11	消化器、血液・造血器疾患	4	1. 消化器疾患 1) 口唇・口蓋裂 2) 肥厚性幽門狭窄症 ヒルシュスプリ ング病 鎖肛 腸重積症 3) ロタウイルス感染症 2. 血液・造血器疾患 1) 再生不良性貧血 溶血性貧血 2) 特発性血小板減少性紫斑病 3) 好中球減少症 4) 血友病	
12 13	悪性新生物、 腎・泌尿器疾患	4	1. 悪性新生物 1) 急性リンパ性白血病 急性骨髄性白血病 2) 神経芽腫 2. 腎・泌尿器疾患 1) 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 2) 神経芽腫 ウイルムス腫瘍 3)	
14 15	神経疾患、事故・外傷 救急蘇生法	4	1. 神経疾患 1) てんかん 脳性麻痺 2) 二分脊椎 水頭症 2. 事故・外傷 1) 溺水 2)熱傷 3)熱中症 3. 子どもの救急蘇生法	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
小児看護学方法論Ⅱ	1	30	2年後期	宮部麻衣子 野口みどり
科目目的 : 病気や障がいを持つ小児とその家族の特徴を理解し、小児とその家族に必要な看護を 実践するための知識・技術・態度を身につける 目標 : 1. 病気・障害を持つ子どもと家族の特徴と看護の役割が理解できる 2. 子どもを取り巻く環境や生活の場、災害などの状況に特徴づけられる看護について理解する 3. 疾病の経過から看護の特徴を理解し、子どものアセスメントに必要な知識・技術を学ぶ 4. 障がい児看護の基礎的知識と子どもの虐待と看護について学ぶ 5. 小児技術・看護過程の展開方法を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 参考文献 : ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 MC メディカ出版				
評価方法 : 筆記試験100% 宮部30% 野口70% (筆記40%・看護過程の展開30%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の 4段階評価とする				
授業の進め方 子どもの健康問題と看護に焦点を当て、経過別・治療処置別・症状・状況別看護を学び、小児と その家族に必要な看護を学習します。事例による看護過程の展開と小児の看護技術演習を行い、 学習内容が活用できるように進めていきます				
単元：病気・障害を持つ子ども				担当講師：宮部麻衣子
単元：子どものアセスメント 症状を示す～小児の看護技術・看護過程				担当講師：野口みどり

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	病気・障害 を持つ小児 と家族の看 護	病気・障害をもつ 小児と家族の特徴 と看護の役割を知 る	2	1. 病気・障害が子どもと家族に与える 影響 ・子どもの病気・治療に伴うストレス ・子どもの病気・障害に対する家族の 負担、ストレス 2. 子どもの健康問題と看護 ・苦痛の緩和、意思決定の支援 - セルフケアの支援 ・子どもの日常生活に関わる看護 ・子どもと家族の看護	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2	状況に特徴付けられる看護	状況（環境）に応じて、子どもと家族の看護を理解する	2	1. 入院中の子どもと家族の看護 ・子ども家族の特徴 ・治療入院生活を支える看護 2. 外来における子どもと家族の看護 ・外来の特徴と看護の役割・外来環境 3. 在宅療養中の子どもと家族の看護 ・在宅医療の背景と意義、社会資源 4. 災害時の子どもと家族の看護 ・災害時の子どもと看護の特徴とその看護	講義
3 4	疾病の経過と看護	疾病の経過から看護の特徴を理解する	4	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 ・特徴と子どもに与える影響 ・セルフケア能力、自立した成人患者 2. 急性期にある子どもと家族の看護 ・苦痛の緩和、倫理的配慮 3. 周手術期の子どもと家族の看護 ・手術の特徴、術前後の看護 4. 終末期の子どもと家族の看護 ・死についてのとらえ方 ・子どもをなくした家族の看護	講義
5	小児のアセスメント	アセスメントに必要な身体計測および身体診査の方法を理解する	2	1. アセスメントに必要な技術 ・コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定 2. 身体的アセスメント ・呼吸器、循環器、消化器、運動・神経系	講義
6 7	症状を示す小児の看護	子どもに起こりやすい症状とその看護を理解する	4	1. 不きげん、啼泣、呼吸困難、発熱 嘔吐、下痢、便秘、脱水、発疹 けいれん、黄疸	講義
8	障害のある小児と家族の看護 小児の虐待と看護	子どもと家族の支援について理解する	2	1. 障害のとらえ方 2. 障害のある子どもと家族の特徴 3. 障害のある子どもと家族の社会的支援 1. 虐待の定義とタイプにおける特徴 2. リスク要因と発生予防・早期発見 3. 虐待に特徴的にみられる状況 4. 求められるケア	講義
9 10	検査・処置を受ける小児の看護	小児の特殊技術・治療・処置別看護を理解する	4	1. 子どもにとっての検査・処置体験 2. 薬用量の決定 3. 検査・処置	講義

[illegible]

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
14 15	検査処置を受ける小児の技術演習	小児の安全・安楽・自立を考慮し適切な手順と技法を用いて必用な小児の基礎技術を習得する	4	1.学内実習 1)採尿パックの貼付(尿採取) 2)点滴固定方法:体位の支え方、点滴刺入部の固定(点滴シーネ) 3)バイタルサイン測定・身体計測 4)環境調整・環境の整え方 2.学習方法 1)援助計画書に沿って技術の実施 2)技術チェックリストによる技術の評価 3.リフレクション 1)リフレクションシートの記載 2)技術チェックリスト・リフレクションシートを用い、担当教員から個別指導・助言	技術実習
単位修得認定試験			1	筆記試験・看護過程演習評価表で評価する	

事前課題：看護過程展開のための学習として、すでに学習した内容が想起できるようノート整理をしてください。1．小児の気管支・肺の構造と特徴、2．小児看護で用いる理論(エリクソン・ピアジェ)
3．小児の急性期の看護、4．症状別看護（発熱・咳・脱水）、6．治療処置（吸入・輸液管理）
7．小児・家族アセスメント(発達段階・発達課題)

事後課題：看護過程記録・看護計画の提出 提出：講義終了3日後

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
母性看護学方法論Ⅱ	1	30	2年後期	山本哲三 吉田かつえ
科目目的：母性各期に起こりやすい疾患と異常の徴候を学び、健康障害の予防に必要な看護が実践できるための基礎的知識・技術・態度を身につける 科目目標： 1. 母性のライフサイクル各期に起こりやすい疾患とその看護について学ぶ 2. 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常について学ぶ 3. 周産期にある対象の看護過程の展開について学ぶ				
教科書：系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(9) 女性生殖器 医学書院 参考文献：都度紹介				
評価方法：筆記試験 100% 山本 70% 吉田 30%(筆記 15%演習 15%) 評価・認定：優(80点以上)、良(70点～79点)、可(60点～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 看護過程ではグループ学習があります 看護過程に関する事前学習(復習)をして参加して下さい 看護過程の既習資料を持参して下さい				
単元: 妊娠の異常 分娩の異常 産褥の異常 ライフサイクルに関連した生殖器疾患と看護			担当講師: 山本哲三	
単元: 看護過程			担当講師: 吉田かつえ	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	妊娠の異常	異常妊娠と看護について学ぶ	6	妊娠の異常 1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の感染症 3. 妊娠疾患 4. 多胎妊娠 5. 妊娠持続期間の異常	講義
4 5	分娩の異常	分娩に伴う異常と看護について学ぶ	4	分娩の異常 1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 胎児の異常による分娩障害 4. 胎児の付属物の異常 5. 胎児機能不全 6. 分娩時の損傷 7. 分娩第3期および分娩直後の異常 8. 分娩時異常出血 9. 産科処置と産科手術	講義

[illegible]

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				①褥婦：「呼吸、循環、体温」「排泄」「休息・睡眠」「衣類・清潔」「役割・達成感」「学習」「性」 ②新生児：「栄養」「排泄」	個人ワーク
			2	<講義> 1) 下記の情報の分析・解釈、看護課題の明確化を看護過程展開例の提示・説明 ①褥婦：「呼吸、循環、体温」「排泄」「休息・睡眠」「衣類・清潔」「役割・達成感」「学習」「性」 ②新生児：「栄養」「排泄」 <個人ワーク>(提出) 1) 関連図と看護課題の優先順位の決定とその根拠を考え、看護課題を提出	講義 個人ワーク
			2	<講義> 1) 看護課題の優先順位の決定とその根拠と看護課題を提示説明 <個人ワーク>（提出） 1) 看護計画立案	講義 個人ワーク
			2	<グループワーク> 1) 看護計画立案（提出） 個人で立案した計画をもとに再検討	グループワーク
			2	グループ発表会 提示する看護課題に従い発表	
				評価方法 看護過程提出物による評価	
			単位修得認定試験		

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
精神看護学方法論Ⅱ	1	30	2年後期	畠山 智 大西 史浩
科目目的 : 主な精神障害の特徴と精神疾患について理解し、患者・看護師関係の成立・発展の必要性を学ぶ。精神に障害をもつ人と、その家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける 目標 : 1. 対象―看護師関係の意義、発展させるための方法を理解する 2. 対象の特徴を知り、様々な状況における看護の展開と援助技術について理解する 3. 精神に障害をもつ対象の家族がおかれている状況を理解し、家族が危機を乗り越えるための援助を理解する 4. 精神保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解する				
教科書 : 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 参考文献 : その都度紹介します				
評価方法 : 筆記試験(大西 70%) 看護過程展開(畠山 30%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方: 1. 教科書、配布資料の基に進めていきます 2. 看護過程の展開では、個人学習からグループワーク学習となりますので、積極的取り組んでください				
単元: 精神障害患者の看護			担当講師: 大西史浩	
単元: プロセスレコードの意義 精神に障害のある対象の看護過程			担当講師: 畠山 智	

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	精神障害患者の看護	精神に障害を持つ人の看護介入の基本を理解する	2	1. 精神看護における安全と事故防止 2. 精神を病む人の看護援助の基本 1)日常生活援助 2)活用する技法 (1)コミュニケーション (2)ロールプレイング (3)面接 (4)カウンセリング (5)グループワーク (6)生活技能訓練 (S S T) (7)心理教育 (8)精神科訪問看護	講義 DVD

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				3)行動制限と看護 (1)隔離室（保護室）使用時の看護 (2)拘束の看護 4)暴力のマネジメント (1)患者からの暴力行為から回避 (逃げる)する方法 (2)暴れている患者を保護する方法 (3)言語的に興奮を鎮める技術 (4)お互いの位置関係を保つ (5)安楽カート使用 5)患者＝看護師関係 (1)患者＝看護師関係の基盤 (2)患者＝看護師関係の発展段階	講義
2 3		精神症状と問題行動 に対する看護の方法 について理解する	4	1. 主な精神症状と問題行動への看護 1)不安、緊張状態 2)抑うつ状態 3)引きこもり状態 4)興奮、攻撃、躁状態 5)幻覚、妄想 6)強迫、儀式行動 7)拒否、否定状態 8)操作的状態 9)自傷、自殺企図 10)嗜癖行動 11)せん妄、認知症	講義
4 5		代表的な精神疾患の 看護について理解す る	4	1. 主な精神疾患の看護 1)主な疾患の看護 (1)アルツハイマー病 (2)血管性認知症 (3)アルコール、薬物依存症 (4)てんかん (5)統合失調症 (6)躁うつ病 (7)人格障害 (8)心因性精神病と神経症	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
6		代表的な治療の看護について理解する	2	1. 主な精神科治療の看護 1) 主な治療の看護 (1) 身体療法 (2) 精神療法 (3) 社会療法、環境療法 (4) 行動療法、活動療法	講義
7		精神に障害をもつ対象の家族の現代と危機を乗り越えるために必要な援助の基本を理解する	2	1. 精神障害を持つ患者の家族への看護 1) 家族の理解 2) 家族への支援	講義
8		地域における社会資源の機能を理解する 精神保健、医療、福祉チームにおける看護師の役割を理解する	2	1. 地域における看護 1) 地域における社会資源 (1) 治療を継続するためのリハビリテーションの場 ① 訪問看護 ② 精神科デイケア (2) 住むための施設 ① 復帰施設 ② 精神障害者居住生活支援事業 ③ 雇用及び就労支援としての社会資源 2) 精神保健医療福祉サービスの提供者	講義
9	精神に障害のある対象の看護過程	事例を通してプロセスレコードの意義を理解する	2	1. プロセスレコードの意義 プロセスレコードから考察する プロセスレコードの活用	事例 プロセスレコードの活用

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
10 11 12 13 14 15	精神に障害のある対象の看護過程	精神に障害のある対象の看護過程の展開ができる	12	1. 紙上事例による看護過程展開演習 経過別：統合失調症の慢性期 事例：統合失調症（40歳代 男性） 1)学習方法 (1)個人ワーク <グループワーク前の課題> ①提示された紙上事例の情報整理（精神看護学実習アセスメントガイドを活用） ②情報の解釈・分析 ③看護課題の明確化 <グループワーク後の課題> ①全体像（関連図）から看護計画まで立案 (2)グループワーク（1グループ5名） ①個人ワークの学習内容を持ち寄り、意見交換・質問・確認し、関連図を完成 (3)グループワーク終了後発表 ①発表内容 関連図をもとに看護課題の優先度 2)評価方法 (1)看護過程演習評価表で評価する	演習 グループワーク 演習 グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験 看護過程評価表	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
在宅看護論方法論Ⅰ	1	30	2年 後期	櫻井美奈子 高橋都子
科目目的：在宅療養者と家族への看護が実践できるように必要な基礎的知識・技術・態度を身につける 目標：1. 療養者と家族の日常生活を支えるために必要なアセスメントと援助方法を理解する 2. 在宅看護の中で行われる医療処置に関する援助方法を理解する 3. 膀胱内留置カテーテル法と経管栄養法に関する援助技術を安全・安楽に実施できる				
教科書：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 参考文献：看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 メヂカルフレンド社 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版				
評価方法：筆記試験 100%(高橋 40%、櫻井 60%) 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 3. 学内演習は事前課題→講義→演習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます 4. 学内演習は実際の場面を想定して行います				
単元：在宅看護技術			担当講師：高橋都子	
単元：在宅医療技術			担当講師：櫻井美奈子	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	在宅看護 技術	療養者の日常生活能力のアセスメントの視点と、生活を支える援助技術方法を理解する	12	1. 在宅看護技術の特徴 1)多様なニーズへの対応 2)経済面への配慮 2. 呼吸に関する援助技術 1)在宅における呼吸管理・ケアの特徴 2)呼吸機能のアセスメント 3)呼吸機能への介助のポイント 3. 食事に関する援助技術 1)在宅での食事の特徴 2)食生活・嚥下に関するアセスメント 3)食生活・嚥下への介助のポイント 4. 排泄に関する援助技術 1)在宅での排泄の特徴 2)排泄に関するアセスメント 3)排泄への介助のポイント	講義 DVD

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5. 移乗・移動に関する援助技術 1)在宅での移乗・移動の特徴 2)移乗・移動に関するアセスメント 3)移乗・移動への介助のポイント 6. 清潔に関する援助技術 1)在宅での清潔の特徴 2)清潔に関するアセスメント 3)清潔保持への介助のポイント 7. コミュニケーションに関する援助技術 1)在宅看護の活動におけるコミュニケーション 2)信頼関係が築かれるためのコミュニケーション 8. 看取りに関する援助技術 1)在宅での死亡確認 2)病状変化時の対応 3)家族への死の準備教育 4)グリーフケア	講義 DVD
7 8 9 10 11	在宅医療 技術	在宅における主な医療処置について、適応と援助技術方法を理解する	10	1. 在宅における医療処置・医療行為の特徴と課題 1)療養者・家族による管理 2)薬剤・医療材料・衛生材料の調達 3)医師との連携 2. 褥瘡に関する援助技術 1)褥瘡の予防 2)褥瘡発生時の対応 3)治療・ケア計画の実際 3. 膀胱内留置カテーテルに関する援助技術 1)適応条件 2)カテーテルの種類と適応 3)合併症とその対処方法 4)プライバシーの保護と生活の工夫 4. ストーマ管理に関する援助技術 1)ストーマ（肛門・膀胱）の適応 2)ストーマからの排泄方法 3)合併症とその対応 4)生活の工夫	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5. 経管栄養（経鼻・胃瘻）に関する援助技術 1) 経管栄養の種類と適応 2) 合併症とその対応 3) 生活の工夫 6. 中心静脈栄養に関する援助技術 1) 適応条件 2) 療養者・家族への看護 7. 在宅酸素療法に関する援助技術 1) 適応条件 2) 療養者・家族への看護 8. 在宅人工呼吸療法に関する援助技術 1) 適応条件 2) 療養者への看護 9. 腹膜透析に関する援助技術 1) 適応条件 2) 療養者・家族への看護 10. 疼痛緩和に関する援助技術 1) 在宅における疼痛緩和 2) 療養者・家族への看護	講義
12 13 14 15		安全・安楽な援助技術を実践する	8	1. 学内演習 1) 項目 (1) 脳梗塞後遺症による嚥下障害がある療養者の経鼻胃チューブの挿入 (2) 脳梗塞後遺症による神経因性膀胱がある療養者の膀胱内留置カテーテルの交換 2) 方法 (1) 事前課題 ① 学習ノートの作成 a. 解剖生理・病態生理 b. 経鼻経管栄養・膀胱内留置カテーテルを適応している療養者の在宅看護 ② DVD の視聴 ③ 援助計画書の作成 ④ 援助計画書に沿った技術練習	学内演習 DVD

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(2)学内演習の進め方 ①グループ内で「看護師役」「観察者」をローテーションする ②療養者役はモデル人形を使用する ③援助計画書に沿った技術の実施 ④技術評価 ⑤リフレクションシートの記載	
単位修得認定試験			1	筆記試験	

<事前課題>

日常生活援助技術についてこれまで履修した内容を復習しながら、第 5 章 在宅看護技術の該当部分を熟読する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
在宅看護論方法論Ⅱ	1	30	2年 後期	佐々木眞弓 櫻井美奈子
科目目的 : 在宅療養者に多い健康障害の特徴を理解し在宅看護の実際を学ぶ。 在宅看護における療養者と家族が抱えている課題を解決するための展開方法を身につける 目標 : 1. 訪問時の基本的態度を習得する 2. 在宅看護各時期の介入の特徴を理解する 3. 様々な症状・状態にある在宅療養者と家族に対する看護を理解する 4. ロールプレイを通して在宅看護場面のイメージ化を図り、課題解決に向けた訪問看護の展開方法を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 参考文献 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 看護学テキスト NiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 在宅看護論 実践をことばに (第6版) ヌーベルヒロカワ				
評価方法 : 筆記試験 50%(高橋)、在宅看護論演習 50%(櫻井) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 3. 地域医療論・社会福祉・関係法規など、在宅看護に関連する専門基礎分野の学習内容を復習しましょう 4. グループ学習で事例検討を行いロールプレイで発表しますので、各自の役割をしっかりと認識し積極的に参加しましょう				
単元 : 在宅看護の実際			担当講師 : 高橋都子	
単元 : 在宅看護における事例展開			担当講師 : 櫻井美奈子	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	在宅看護の実際	訪問時のマナーを理解できる 訪問看護導入のプロセスを理解できる	2	1. 訪問時の対応・マナー 1)服装・身だしなみ・携行品 2)態度と行動 3)家庭訪問・初回訪問の実際 (1)訪問の意義 (2)訪問の準備・留意点 (3)訪問の実際 (4)訪問終了後	講義 DVD

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2		訪問看護の各介入時期における療養者及び家族の特徴と看護について理解できる	2	1. 在宅看護介入時期別の看護の特徴 1)退院前（在宅療養準備期） 2)在宅療養移行期 3)在宅療養安定期 4)急性増悪期 5)終末（看取り）期 6)在宅療養終了期	講義
3		様々な症状・病態を抱えながら生活している療養者及び家族に対する在宅看護の実際を理解する	10	1. 在宅療養者の症状・状態別看護 1)認知症の療養者に対する看護 2)独居の療養者に対する看護 3)終末期の療養者に対する看護 4)難病の療養者に対する看護 5)小児の療養者に対する看護 6)統合失調症療養者に対する看護	講義
4					
5					
6					
7					
8 9 10 11 12 13 14 15	在宅看護における事例展開	訪問看護師としてのマナーに留意し、療養者及び家族との信頼関係成立の方法を理解する	16	1. 紙上事例による訪問看護展開演習 経過別：慢性期 事例：脳梗塞後遺症のある療養者の看護（70歳代・男性） 1)項目：初回訪問のロールプレイ 2)学習方法 (1)個人ワーク ①学習ノート作成 a.療養者・家族の発達段階・発達課題 b.疾患に関する解剖生理・病態生理 c.介護保険制度と社会資源 d.訪問看護の提供方法・種類 e.必要な看護技術の目的・方法 f.在宅における看護過程展開の視点・特徴 g.訪問時のマナー ②情報整理・アセスメント ③「現在抱えている課題」及び「将来的に起こり得る課題」を予測し看護の方向性を出す (2)グループワーク ①個人ワークの学習内容を持ち寄り「看護上の課題」を明確にする	個人ワーク グループワーク 学内演習 ロールプレイ

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				②初回訪問の看護計画書の立案 ③初回訪問のロールプレイ計画書 (シナリオ)の作成 (3)全体発表 ①初回訪問のロールプレイ (4)リフレクションシートの記載 3)評価方法 在宅看護論方法論Ⅱ演習評価表で 評価する	
単位修得認定試験			1	筆記試験、在宅看護論方法論Ⅱ演習評価表	

<事前課題>

(在宅看護の実際)

第1回 : 教科書 付章 在宅看護論における実習の手引きを熟読する。

第2～7回 : 教科書 第6章 在宅看護の実際を熟読する。